

第649回番組審議会報告

2020年6月2日開催

■出席委員

佐藤卓己委員長 佐藤友美子副委員長 今井美樹委員(書面参加)
島田智委員 太平信恵委員 津村記久子委員 東野博昭委員 細見良行委員

■毎日放送出席者

三村社長 梅本専務 木田常務 宮田常務 浜田取締役 高山取締役
藪内東京制作局長 中村プロデューサー 高山コンプライアンス室長
菅野番組審議会事務局長

◆議事の概要

テレビ番組『情熱大陸』(2020年5月24日(日)23:00~23:30放送)について意見交換した。

【番組概要】

「リアルすぎる女子高生CG」とも呼ばれる「Say a」を作り出した、3DCGアーティストユニット「TELYUKA」を取材。Say aに「声」を実装するまでを追い、3DCG技術の最先端、さらに、その執念の表現力に迫る。

【各委員の主な意見は次の通り】

- * AIや3DCGがどんどん進めば、蓄積したデータで、つまらない評論家よりもっとまじな意見を言うSay aみたいなのが出てくるのではないかなど、本当にびっくりした。でも逆に、このままこれが進んでいくと、若者なんか人間同士の恋をせずに、Say aと話しているほうが楽で満足してしまうかもとちょっと怖くなったぐらい、いろいろ考えさせられた。
- * 「22年前に飛び込んだ。そして、着々と力をつけてきた」というナレーションがあったが、TELYUKAのおふたりが「こんなこともやっていて、今、ここにたどり着いた」みたいな部分も欲しかった。
- * 自分の娘を交通事故で亡くした人から娘を再現してもらえないかと頼まれたが断ったエピソードと、お金を儲けるためのキャッチーな一瞬で流されていくようなものに自分たちの技術や時間を使うのはどうなのかというコメントで、その情熱のもととなるものに触れた気がした。この発言をよく

引き出したなと思った。新潟の仏像を見に行ったシーンは全く予想外で、非常にびっくりした。仏像が出てきて、そこでこの人たちは現代の木喰上人なんだなど、木と彫刻刀がパソコンとマウスにかわっただけなんじゃないかというのを、非常に納得感を持って思った。

*女の子をゼロから全てコントロールしてつくり出すことは、すごくうさん臭いと思っていたが、夫婦でつくっているということにまず安心した。そして、自分の娘を再現してくれないかという依頼があって、今はできないけれどもいつかそういう時代が来るという考え方にすごく納得した。全てをコントロールした女の子をつくり出す意味が最初はわからなかったが、この辺りでなるほどと思った。

*ものづくりのしんどさとか面白さをすごく伝えられている回だったと思った。

*3DCGで亡くなった自分の娘をつくっていいのかという、すごく倫理の問題がからんでくることに対して、どう考えてらっしゃるのかなというの
は気になった。

*番組の紹介に「不気味の谷」という、専門用語が使われていて、「不気味の谷」という言葉が果たして視聴者にどの程度理解されていたのかということ
は気になった。もう少し詳しくロボットと人間の反応についての説明があ
ったほうが親切かなという印象を持った。

【番組制作者側の説明、質問への回答】

*「不気味の谷」に関しては、番組の中ではかなり削ぎ落としてしか表現して
いない。プレビュー段階では、グラフを使ってロボットとかアニメーションの
段階まで説明していたが、どんどん我々が知りたいTELYUKA
さんの話とは外れていくということもあって、最小限の説明に抑えた。

*早い段階で仏像と亡くなった娘さんの話を出したのは狙いで、最初は後半
のまとめ部分にあったが、何でこの人たちはこんなことをやっているのだ
ろうという疑問がどこまで行ってもついてくるので、随分早い段階で見せ
た。

*取捨選択が多い番組で、放送回によっては撮影した映像が200時間にな
ることもある。それを24分にするので、99%以上がカットになる。ド
キュメンタリーだが、心が動くとか、このシーンは使いたいというつくり
手の意図がかなり反映される番組。見る方からすれば、足りないと思う部

分が出てきてしまうかもしれないが、番組のDNAとして、演出家の意図を最大限くみ取ろうという努力をしている。

以上